

学年							小笠原村立小笠原中学校 社会科 2年 年間指導計画						
小学校						中学校							
1	2	3	4	5	6	1	2	3					
月	単元名	歴史的分野 近世の日本 (23)				単元の系統性	「小学校6年 我が国の歴史上の主な事象」を踏まえて、16世紀から19世紀前半までの歴史を扱い、我が国の近世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。						
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫							
1 中世ヨーロッパとイスラム世界 (p.100~101) 2 ルネサンスと宗教改革 (p.102~103) 3 ヨーロッパ世界の拡大 (p.104~105) 4 ヨーロッパ人との出会い (p.106~107) 5 織田信長・豊臣秀吉による統一事業 (p.108~109) 6 兵農分離と秀吉の対外政策 (p.110~111) 7 桃山文化 (p.112~113) 8 江戸幕府の成立と支配の仕組み (p.114~115) 9 さまざまな身分と暮らし (p.116~117) 10 貿易の振興から鎖国へ (p.118~119) 11 鎖国下の対外関係 (p.120~121) 12 琉球王国やアイヌ民族との関係 (p.122~123) 13 農業や諸産業の発展 (p.124~125) 14 都市の繁栄と交通路の整備 (p.126~127) 15 幕府政治の安定と元禄文化 (p.128~129) 16 享保の改革と社会の変化 (p.130~131) 17 田沼意次の政治と寛政の改革 (p.132~133) 18 新しい学問と化政文化 (p.134~135) 19 外国船の出現と天保の改革 (p.136~137)						つまずきやすいポイント			<ul style="list-style-type: none"> 江戸の三大改革、田沼の政治 時代順の錯誤 用語の定着 活用・記述問題 				
4 ・ 5 ・ 6							工夫・手立て			<ul style="list-style-type: none"> 単元の最初で用語を調べる 単元の終わりに小テストの実施 江戸の三大改革、田沼の政治を表にまとめる 年表にまとめる ワークシートによる応用問題 			
評価規準													
知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 ○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ○社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 				思考・判断・表現		<ul style="list-style-type: none"> ○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の動きと統一事業、江戸幕府の成立と対外関係、産業の発達と町人文化、幕府の政治の展開について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 		主体的に学習に取り組む態度		<ul style="list-style-type: none"> ○近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 	
ワークシート 小テスト 定期考査		ワークシート 小テスト レポート 定期考査		ワークシート 小テスト レポート 定期考査		ワークシート ノート 行動観察 自己評価							

学年												
小学校						中学校		小笠原村立小笠原中学校 社会科 2年 年間指導計画				
1	2	3	4	5	6	1	2				3	
月	単元名	地理的分野 地域調査の手法(7)				単元の系統性	「小学校3年 身近な地域や市の調査」、「小学校4年 県の様子」、「小学校4年 県内の特色ある地域の様子」を踏まえて、場所などに関わる視点に着目して、地域調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、地域調査を行う際の視点や方法を理解し、そのために必要な地理的技能を身に付けられるようにすることが求められている。					
6	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	1 調査の準備(p.142~143) 2 地形図の読み取り方①(p.144~145) 3 地形図の読み取り方②、デジタル地図の使い方、地形図の読み取り方③(p.146~147) 4 野外観察・聞き取り調査(p.148~149) 5 資料を使った調査(p.150~151) 6 調査のまとめ(p.152~153) 7 調査結果の発表(p.154~155)						つまずきやすいポイント		<ul style="list-style-type: none"> ・地形図の読み取り(地図記号、等高線、縮尺) ・活用・記述問題 			
							工夫・手立て		<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習の反復 ・ワークシートによる応用問題 			
評価規準												
知識・技能		○ 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 ○ 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。				思考・判断・表現		○ 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。			主体的に学習に取り組む態度	
		ワークシート 小テスト 定期考査						ワークシート 小テスト レポート パフォーマンス評価 定期考査				

学年							小笠原村立小笠原中学校 社会科 2年 年間指導計画			
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1				2
月	単元名	地理的分野 日本の地域的特色と地域区分(9)				単元の系統性	「小学校5年 我が国の国土の様子と国民生活」、「小学校5年 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」、「中学校1年 日本の地域構成」を踏まえて、分布や地域などに関わる視点に着目して、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、我が国の国土の地域的特色と地域区分の方法や意義を理解できるようにすることが求められている。			
7	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
	1 地形から見た日本の特色 (p. 158~161) 2 気候から見た日本の特色 (p. 162~163) 3 自然災害と防災・減災への取り組み (p. 164~165) 4 人口から見た日本の特色 (p. 168~169) 5 資源・エネルギーから見た日本の特色 (p. 170~171) 6 産業から見た日本の特色 (p. 172~173) 7 交通・通信から見た日本の特色 (p. 174~175) 8 日本を地域区分しよう (p. 176~177) 9 まとめの活動 日本の地域的特色を伝えよう (p. 178~179)						つまずきやすいポイント	・日本の気候の識別 ・活用・記述問題		
							工夫・手立て	・問題演習の反復 ・ワークシートによる応用問題		
評価規準										
知識・技能		○ 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に、日本の①自然環境に関する特色を理解している。 ○ 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の②人口に関する特色を理解している。 ○ 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の③資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。 ○ 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。 ○ ①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ、日本の国土の特色を大観し理解している。 ○ 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。				思考・判断・表現	○ ①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○ 日本の地域的特色を、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。		主体的に学習に取り組む態度	
ワークシート 小テスト 定期考査						ワークシート 小テスト レポート 定期考査	ワークシート ノート 行動観察 自己評価			

学年															
小学校						中学校		小笠原村立小笠原中学校 社会科 2年 年間指導計画							
1	2	3	4	5	6	1	2	3							
月	単元名	地理的分野 日本の諸地域 (35)				単元の系統性	「小学校5年 我が国の国土の様子と国民生活」、「小学校5年 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」、「中学校1年 日本の地域構成」、「中学校2年 日本の地域的特色と地域区分」を踏まえて、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域的特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解できるようにすることが求められている。								
学習活動							「わかる」から「できる」授業への工夫								
1 九州地方をながめて (p.186~187) 2 自然環境に適応する人々の工夫 (p.188~189) 3 自然の制約の克服と利用 (p.190~191) 4 持続可能な社会をつくる (p.192~193) 5 基礎・基本のまとめ 九州地方をふり返ろう (p.194) 6 中国・四国地方をながめて (p.198~199) 7 交通網の整備と人や物の移動の変化 (p.200~201) 8 交通網を支える産業とその変化 (p.202~203) 9 活用される交通・通信網 (p.204~205) 10 基礎・基本のまとめ 中国・四国地方をふり返ろう (p.206) まとめの活動 「地域サミット」の参加者になって持続可能な地域像を考えよう (p.206~207) 11 近畿地方をながめて (p.210~211) 12 大都市圏の形成と都市の産業 (p.212~213) 13 ニュータウンの建設と都市の開発 (p.214~215) 14 変化する農村の暮らし (p.216~217) 15 基礎・基本のまとめ 近畿地方をふり返ろう (p.218) まとめの活動 テレビ局の「ディレクター」になって近畿地方を発信しよう (p.218~219) 16 中部地方をながめて (p.222~223) 17 特色ある東海の産業 (p.224~225) 18 特色ある中央高地の産業 (p.226~227) 19 特色ある北陸の産業 (p.228~229) 20 基礎・基本のまとめ 中部地方をふり返ろう (p.230) まとめの活動 「博覧会」のポスターを作ろう (p.230~231) 21 関東地方をながめて (p.234~235) 22 世界と結び付く東京 (p.236~237) 23 東京を生活圏とする人々の暮らしと交通 (p.238~239) 24 関東地方の多様な産業 (p.240~241) 25 基礎・基本のまとめ 関東地方をふり返ろう (p.242) まとめの活動 多数の「帰宅難民」が生まれた理由を考えよう (p.242~243) 26 東北地方をながめて (p.246~247) 27 祭りや年中行事の伝統とその変化 (p.248~249) 28 伝統工芸品の生産・販売とその変化 (p.250~251) 29 過去の継承と未来に向けた社会づくり (p.252~253) 30 基礎・基本のまとめ 東北地方をふり返ろう (p.254) まとめの活動 NPOを設立して、東北地方を活性化する「イベント」を企画しよう (p.254~255) 31 北海道地方をながめて (p.258~259) 32 自然の制約に適応する人々の工夫 (p.260~261) 33 自然の制約や社会の変化を乗り越える (p.262~263) 34 自然の特色を生かした産業 (p.264~265) 35 基礎・基本のまとめ 北海道地方をふり返ろう (p.266) まとめの活動 自然環境を生かした「北海道ツアー」を企画しよう (p.266~267)							つまづきやすいポイント ・地名、地形名の定着 ・用語の定着 ・資料の読み取り ・活用・記述問題								
8	9	10	11	単元名 地理的分野 日本の諸地域 (35)							工夫・手立て ・単元の最初で用語を調べる ・単元の終わりに小テストの実施 ・地図帳・白地図やICTの活用 ・映像教材の活用 ・ワークシートによる応用問題				
評価規準															
知識・技能	○ 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ○ ①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。				思考・判断・表現	○ 日本の諸地域において、それぞれ①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。				主体的に学習に取り組む態度	○ 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。				
	ワークシート 小テスト 定期考査					ワークシート 小テスト レポート パフォーマンス評価 定期考査					ワークシート ノート 行動観察 自己評価				

学年												
小学校						中学校		小笠原村立小笠原中学校 社会科 2年 年間指導計画				
1	2	3	4	5	6	1	2				3	
月	単元名	地理的分野 地域の在り方 (4)				単元の系統性	「小学校3年 身近な地域や市の調査」、「小学校4年 県の様子」、「小学校4年 県内の特色ある地域の様子」、「中学校2年 地域調査の手法」を踏まえて、空間的相互依存作用、地域などに関わる視点に着目して、地域の在り方を地域的特色や地域の課題と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、課題解決の取組や課題解決に向けて構想したことを適切に表現する手法を理解できるようにすることが求められている。					
12	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	1 身近な地域の課題を見つける(p.270～271) 2 課題を調査する(p.272～273) 3 要因を考察する(p.274～275) 4 解決策を構想する(p.276～277) 5 地域の将来像を提案する(p.278～281)						<p>・記述問題</p> <p>つまずきやすいポイント</p>					
							<p>・本単元に限らず、書く練習を積み重ねてくことで、本単元でも一定の記述ができるようにする</p> <p>工夫・手立て</p>					
評価規準												
知識・技能		○ 地域の実態や課題解決のための取り組みを理解している。 ○ 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。				思考・判断・表現		○ 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。			主体的に学習に取り組む態度	
		ワークシート 小テスト 定期考査						ワークシート 小テスト レポート パフォーマンス評価 定期考査				
											ワークシート ノート 行動観察 自己評価	

